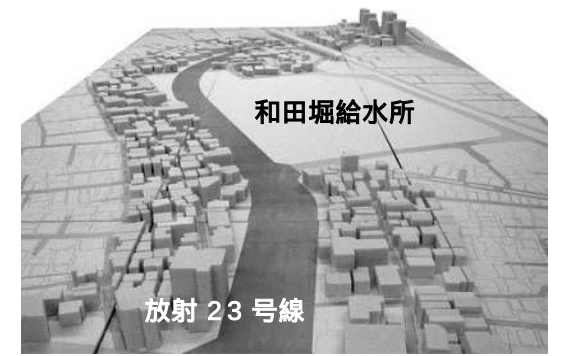


放射 2 3 号線沿道地区街づくり懇談会の振り返り

第 1 回 街づくりについての意見交換 開催日：平成 27 年 7 月 17 日

- 懇談会の主旨：放射 23 号線が整備されると沿道の街並みが変わってくるので、土地利用や建物の高さの制限、緑化をはじめとする沿道の街づくりについて、今後、この懇談会でみなさんと意見交換をしていく旨を説明しました。
- 計画の概要：放射 23 号線の事業概要及び世田谷区都市整備方針で「都市計画道路の放射 23 号線の整備にあわせ、沿道の不燃化や土地利用、周辺の住環境との調和など、沿道の街づくりを検討します」と位置づけられていることについて説明しました。
- 街づくりについて：沿道の街づくりや放射 23 号線の事業概要、懇談会の進め方などについてご意見を伺いました。
- の意見交換



放射 23 号線沿道の街並み模型

《沿道の土地利用について》

第 2 回 土地利用や建物高さについての意見交換 開催日：平成 27 年 10 月 31 日

道路事業を契機として計画的な沿道街づくりを進めるにあたり、今後、どのような街にしたいのかを考えるために、3 つの案を示し、将来の土地利用や建物の高さなどについて意見交換を行いました。

- 2～3 階建ての住宅がある程度ゆとりをもって並んでいる街並み。小さな店舗もある。
- 3～5 階建ての住宅が並んでいる街並み。コンビニや小さなスーパー等もある。
- 5～7 階建て程度のマンションが並んでいる街並み。コンビニや飲食店、大きなスーパー等もある。

第 5 回 土地利用や建物高さについての意見交換 開催日：平成 29 年 3 月 5 日

放射 23 号線完成後の沿道の土地利用を検討するために、沿道の建物の用途、高さなどについて、パソコンの画像処理ソフトを使って、沿道の街並みイメージを作成し共有しました。作業は沿道の複数の地点について、それぞれ 3 つのグループに分かれて意見交換を行いました。



第 5 回 作成した街並みイメージ

第 6 回 土地利用や建物高さについての意見交換 開催日：平成 29 年 9 月 3 日

街並み模型などを使って、放射 23 号線沿道の土地利用について意見交換を行いました。指定されている建ぺい率、容積率、高さなどについて、現在の用途地域と用途地域を変更した場合で、建てられる建物の比較を行い、道路が整備された後に残った土地で、どのような建物が建てられるのか、また、その際の街並みがどのようなになるのかを議論しました。

《沿道周辺の交通について》

第 3 回 周辺の交通についての意見交換

現在、街が抱えている交通課題と、放射 23 号線の整備により新たに懸念される交通課題を検討しました。地図を見ながら、歩行者・自転車・自動車それぞれの交通に関すること、通学路に関することなど、地域のみなさんのご意見を伺いました。

開催日：平成 28 年 2 月 23 日



第 3 回 地図を使った意見交換

第 4 回 周辺の交通についての意見交換

第 3 回の懇談会において、みなさんからいただいたご意見の中で多かった、以下の 2 点を中心に意見交換を行いました。

歩行者が放射 23 号線を横断できる箇所について
自動車が羽根木、松原地区から渋谷方向へ右折できる箇所について

この 2 つのイメージを視覚的に共有していただくため、バーチャルリアリティー（放射 23 号線の整備後のイメージを映像化したもの）を用いて説明しました。

開催日：平成 28 年 7 月 20 日



第 4 回 映像による説明

放射 23 号線沿道地区 将来の街のイメージ

みなさんのご意見

- ・歩行者が放射 23 号線を横断できる箇所を増やしてほしい。
- ・自動車が羽根木・松原地区から渋谷方向へ右折できるようにしてほしい。

街づくりの目標

1. 歩行者や自動車の安全性と利便性を考慮に入れた道路を整備する。

みなさんのご意見

- ・閑静な住環境が守られるような街づくりを望む。
- ・現在の街並みと同じような 2～3 階建て程度に制限する方が良い。
- ・街並みを揃えるために地区計画等で高さ制限をかける必要がある。
- ・沿道に高い建物ができると、日照など裏側の建物への影響が大きくなる。

街づくりの目標

2. 住宅を主体とし、周辺の住環境と調和のとれた街並みを形成する。

みなさんのご意見

- ・適度な賑わいがあり、楽しい街並みにしていきたい、住んでいて楽しい街にしたい。
- ・地域の活性化と長期的視点から、高い建物や店舗があった方が良い。
- ・コンビニや小さなスーパー、カフェ、パン屋など、この地域にないものが欲しい。
- ・子育て、デイサービス、診療所など、地域のための施設は必要だ。

街づくりの目標

3. 誰もが身近に日常生活の利便性を享受できる施設の立地を誘導する。

みなさんのご意見

- ・緑化を進め、公園が所々あるような街にしたい。
- ・地域に公園や広場が少ないので、公園や広場がほしい。
- ・コストや維持管理の労力はかかるが、環境を考慮して生垣がほしい。

街づくりの目標

4 . 環境にやさしい、うるおいのあるみどり豊かな街並みを形成する。

みなさんのご意見

- ・付加価値をつくりだし、資産価値が上がるような街づくりにしたい。
- ・道路がかかる敷地の状況次第で再建の可否が大きく違う。
- ・狭い土地では容積率が上がっても住みにくい住宅になってしまうことが分かった。

街づくりの目標

5 . 道路整備による街の変化に対応した、円滑な建て替えを実現する。

みなさんのご意見

- ・50年、100年先を見据えて防災街づくりを考えるべきだ。
- ・耐火性能を備えた建物が建てられるようになれば、沿道の不燃化が期待できる。
- ・長期的に考えると、小さい建物が並ぶよりは大きい建物が並ぶ方が良く、防火や防音のことも考えた方が良い。

街づくりの目標

6 . 建築物の不燃化を促進し、安全安心な街並みを形成する。

街の物語

みどりが芽吹く新緑の季節。私は、10年ほど前に造られた、幅25メートルという大きな道を歩いています。この道は車道と歩道に分けられ、その間には街路樹が植えられています。車道の端には自転車だけが通れるスペースも備えられています。このみどり豊かな道を歩くことが、私の楽しみの1つです。

午前8時。澄んだ青空の下、多くの人や自転車が往来し、大小さまざまな自動車が京王線の高架下をくぐっていきます。通勤や通学の時間だからか、この時間は、一日の中で人や車の動きが最も活発なようです。

信号が青になると、右手を大きく挙げて元気に歩く黄色のランドセルを背負った子どもたちの姿が見られます。地域の小学校の1年生なのでしょう。その横では、交通安全の旗を手に、子どもたちに「おはよう。」と声を掛ける地域の方がいます。

道路建設当時、信号と横断歩道の位置について、何度も話し合いの場がもたれ、児童の安全をはじめとする様々な議論がなされたそうです。

和田堀給水所の豊かなみどりを眺めながら、手を繋いで楽しそうに歩く親子とすれ違い、道沿いにあるカフェへと足を運びました。店内には、参考書を片手に勉強をする学生や団らんを楽しむお年寄りの方々がいます。彼らを横目に窓際の席に座り、ガラス越しに街を眺めます。道を挟んだ向かい側には、コンビニエンスストアや診療所の看板が見えます。住宅を主体とした街並みの中に、保育園やデイサービスの施設もあり、地域の中で、身近に便利な施設を利用できます。

この道が出来てから10年余り。街の景色は変わりました。所々に3～5階建てのコンクリートの建物が見られ、以前より、災害に強い街になりました。道が造られる前からこの街に住んでいる方の中には、同じ場所で新しい生活を始めた方もいます。そうした方々が、昔と変わらず話に花を咲かせている光景をよく見かけます。風景は変わったのに、昔馴染みの友は変わらずにいる。そんな心地良い繋がりを残しているようです。

カフェでゆったりとした時間を過ごした後、再び歩道を歩いてみます。新たに造られた公園では、小さな子どもたちを遊ばせながら、お母さんたちが会話を楽しんでいます。花壇には色とりどりの花々が植えられ、この街に美しい彩を添えています。近くには大原稻荷神社や羽根木神社もあり、境内の神聖な雰囲気の中、うるおいのあるみどりを肌で感じることができます。街路樹を含めたみどりの景色が、子どもたちの心の中に風景資産として刻まれていくことでしょう。

心地良い疲れを感じつつ、楽しい時間を思い出しながら、私は家路につきました。街とともに人をつなぐこの道には、今もやさしい街づくりが息づいています。

